



ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センターの設置について

概要

九州大学は、米国にて起業家として大成功をおさめた九州大学の卒業生、ロバート・ファン氏の百周年記念寄付金を活用し、「ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（略称 QREC）」を設立します（2010年12月1日付）。本センターは、九州大学の全学学生を対象に、先進的かつ体系的なアントレプレナーシップ関連教育を提供することにより、自立心、向上心、グローバル意識を有し、積極的に新しい価値創造にチャレンジするリーダー人材の輩出を目的としています。そして、アジアにおける本格的かつトップクラスのアントレプレナーシップ教育・研究組織を目指しています。

背景

本センターは、本学において、新たな価値創造に対するチャレンジ精神を育むアントレプレナーシップ教育や、研究や技術の社会での活用方法を学ぶ MOT（技術経営）教育等に対する、組織的取り組みの必要性が高まってきたことを背景に、本学卒業後渡米し大成功をおさめたロバート・ファン氏の百周年記念寄付を契機として設立されるものです。

本センターは、ベンチャービジネスの萌芽たる研究開発の支援中心であった、現在の九州大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを発展的に改組・再構築して設立されるものですが、ファン氏の寄付の背景には、同氏の支援により 2006 年から毎年開講され大きな成果を上げている、米国シリコンバレーでのアントレプレナーシップ・プログラム（QREP）の存在があります。本センターは、QREP の成果・精神をより多くの学生に提供する本格的教育・研究センターとしての任を担っています。

内容

本センターでは、九州大学の全学学生を対象として、先進的で体系的なアントレプレナーシップ教育を行うとともに、同教育において定評のある海外の大学を中心に国内外の大学等との連携を構築し、教育・研究活動を行っていきます。

本センターの主なミッションは次に挙げる 6 つです。

- (1) 全学学生を対象とした先進的かつ体系的なアントレプレナーシップ関連教育の提供
- (2) アントレプレナーシップ研究および効果的な教育法の研究実施
- (3) アントレプレナーシップに関する社会・地域連携活動の実施
- (4) アントレプレナーシップに関する情報発信、国内外機関等との連携・交流実施
- (5) ベンチャービジネスに関する研究開発の支援
- (6) インキュベーション施設の運営と管理

これらの取り組みによって、九州大学におけるリーダー人材育成、九州大学の国際化促進とブランド力向上、社会連携（産学連携）機能の強化等の実現を目指しています。

今後の展開

2011 年 4 月より本格的な講義を開講、初年度の 2011 年度は 10～15 科目程度の教育プログラムを実施する予定ですが、最終的には年間 20 科目程度の開講を目指します。この他にも、ビジネスプラン・コンペティションや地域社会を対象とした各種セミナー等を実施する予定です。

なお 2011 年 1 月 22 日（土）に、ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センターの設立を記念し、シンポジウムを開催致します。プログラムの詳細等は後日ご案内致します。

【シンポジウム概要】

日時：2011 年 1 月 22 日（土） 13：00－18：00（予定）

場所：九州大学伊都キャンパス 稲盛ホール

【お問い合わせ】

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長
谷川 徹

電話：092-642-4360

FAX：092-642-4360

Mail：tanigawa@astec.kyushu-u.ac.jp

九州大学は
2011年に
100周年を
迎えます



九州大学

KYUSHU UNIVERSITY

QREP

Kyushu University RobertHuang Entrepreneurship Program

Kyushu-University・Robert Huang・Entrepreneurship・Program
(九州大学 / ロバートファン / アントレプレナーシップ・プログラム)



Mr. Robert Huang

ロバート・ファン氏の寄付金等を基に、シリコンバレー (SV) で一週間行われます。研修を中心とした教育プログラム (正規授業) 起業家精神 (アントレプレナーシップ) 等を養うことを目的としています。

Mr. Robert Huang ロバート・ファン氏
台湾出身。九州大学卒業。
SVでSYNNEXを創業。
2003年にNYSE上場。他に九大アイスホッケー部を創設

- ・シリコンバレー (海外、起業家精神メッカ、世界最高水準、多様性、実力主義の世界) 文化風土のなかで実施
- ・講師のパーソナルヒストリーに触れ、自己と対比することで、知識だけでなく生き方、考え方を知り、自分の将来を考える
- ・参加メンバーが多様 (男女、留学生、理系文系、社会人、学部1年~博士、東京の大学生等) であり、様々な価値観、考え方に触れるチャンスと、またそのようなメンバーにおいてチームワーク形成法を学ぶことができる

2010年にQREPは6回目を迎えます。

日本では決して体験できない刺激的な体験が
ここにあります!

起業を目的とする方、研究者を目指す学生、大企業就職者など
様々な方が参加、大きな成果を上げています。

【目的】

- ・起業家精神 (チャレンジ精神等) を醸成
- ・グローバル意識 (国際性) を高める
- ・多様な価値観に触れる経験を与える
- ・個人としての自覚向上 (積極性、主体性向上)
- ・大学で学ぶ意味・意義の理解と学習意欲の向上
- ・世界トップの研究やビジネス水準を知る
- ・起業に関する知識・実情理解
- ・社会で競争力あるタフな人材養成
- ・研究者、大企業就職者にも有効



九州大学では QREP のコンセプト、目的をさらに発展させた QREC (九州大学 / ロバートファン / アントレプレナーセンター) を今年 12 月に設立、2011 年度よりアントレプレナーシップ教育プログラムを本格的に開始してまいります。

【お問い合わせ】

国立大学法人九州大学
ベンチャービジネスラボラトリー (VBL)
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6 丁目 10-1
<E-MAIL>support@vbl.kyushu-u.ac.jp
<電話>092-642-4014 / <FAX>092-642-4015

[QREP 概要]

チャレンジ精神とグローバル意識を育むプログラム

九州大学カリフォルニアオフィスの協力の下 2006 年 3 月より、米国シリコンバレーにて「九州大学/ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム」(略称 QREP) を毎年開催しています。これは本学を卒業し米国で大成功をおさめた元台湾人留学生、Mr. Robert Huang(ロバート・ファン氏)の九州大学への寄付金を中心とした九州大学同窓会基金の一部を活用したもので、本学の学生に対する起業家精神の涵養を主目的とした教育プログラムです。

起業家精神、移民文化、国際的ハイテクビジネスのメッカ、シリコンバレーにおいて 1 週間、現地で活躍する起業関係者等多彩な方達を講師に迎え、またスタンフォード大学の学生や留学生とも交流して、自らのキャリア形成を考え、また新たなことにチャレンジする意欲・意識を高める機会を提供しようとするものです。本プログラムは九州大学の正規授業であり単位認定が為されます。また提携大学の早稲田大学学生も参加して本プログラムを実施しています。



◆ 実施概要 ◆

- ・ 事前講習：1 月下旬～2 月下旬 (オリエンテーションと事前講義) (2 日間程度)
- ・ 現地講習：2 月下旬～3 月上旬 (1 週間程度)
- ・ 総括講習：3/ 下旬 参加者成果発表と起業家等を交えた討議 (学外者も参加)

◆ カリキュラム概要 ◆

- ・ 現地の起業家 (アジア系や日本人)、ベンチャーキャピタリスト、NPO 主宰者等による講義と意見交換
- ・ 日本人留学生、現地エンジニア、研究者達とのパネルディスカッション
- ・ スタンフォード大学のクラスで学生とディスカッション
- ・ 現地企業 (ベンチャー、Yahoo!、Apple 等) 訪問 等

[参加者の声]

「今までのどんな講義より充実していた」「将来のことを考えるきっかけとなった」等、多くの学生から毎年たくさんの感想を頂いています。

女性の自分には研究者は無理と思いき就職を考えていたが、子育てしながら頑張る女性、定年過ぎて起業し頑張る人、失敗してもまた頑張る人を知り、チャレンジする前から諦めていた自分が恥ずかしかった。超一流の研究者になるべく努力する事に決めた。

(医学系学府修士一年生 女)

このツアーに参加するまでは、失敗したときのことばかり気にしていた私だが、たくさんの前向きな人やカリフォルニアの風土に触れ、私も前向きでポジティブな考え方をしようと思うようになった。

(経済学部二年生 女)

社会で活躍したければ、自ら刺激のある環境に身を置き、常に自分の能力を高めていく努力をして自己の市場価値を高める必要があると痛感した。

(農学部三年生 男)

私にとって予想をはるかに上回る影響があった。シリコンバレー滞在中は世界に大きく扉を開いているような雰囲気を感じていた。高い山で外の世界がよく見通せる気分だった。

(工学部修士一年生 男)

今回の体験は人生の転機になる事と思います。シリコンバレーの状況を見る事でより広い視野で物事を考える事が出来るようになりました。

(理学府修士二年生 男)

